

| No. | 患者 | | 1日投与量 投与期間 | 副作用 | |
|----------------------------|--|--|---------------------------------|--|--|
| | 性・ 年齢 | 使用理由 (合併症) | | 経過及び処置 | |
| 1 | 男 60代 | C型慢性肝炎 におけるウ イルス血症 の改善 (不眠症) (高血圧) (高尿酸血症) (アレルギー 性鼻炎) | 1500mg 56日間 1000mg 7日間 | 中毒性表皮壊死融解症, 発熱, 倦怠感, 血中尿酸増加, 腎機能障害, 紅斑, 下痢, 食欲減退, 多臓器不全 インターフェロン+リバビリンの前治療歴あり。 2剤療法の際に皮疹(体表面積の10%以下), 顔面, 下腿に浮腫, 肝機能障害が出現したため, グリチルリチン・グリシン・L-システイン, ステロイドで治療を行った。インターフェロン投与時にも若干, 腎機能が悪かったことから, アロプリノール錠(100 ~ 300mg/日, ~中止8日後)経口投与を早めに開始した。 | |
| | | | | 投与開始日 | 本剤 1500mg/日, リバビリン800mg/日, ペグインターフェロンα-2b 1.4μg/kg/週にて治療開始(3剤併用療法)。 発熱, 倦怠感発現。 前回, 2剤療法施行時, 副作用症状として, 皮疹, 浮腫等あったため, 本剤を1500mg/日と減量で開始した。 |
| | | | | 投与3日目 | メフェナム酸(750mg/日), レバミピド錠(300mg/日, ~本剤中止8日後)経口投与。 |
| | | | | 投与5日目 | 尿酸値上昇, 腎機能障害発現。 |
| | | | | 投与6日目 | 開始当初より皮膚痒感, 上下肢に発赤疹あり。グレード1:体表面積の50%以下(限局性), 痒感有。下痢発現。ビフィズス菌製剤微粒(3g/日~本剤中止8日後まで)経口投与。 |
| | | | | 投与7日目 | プレドニゾン内服開始(20mg, ~14日目) |
| | | | | 投与12日目 | 退院。 |
| | | | | 投与15日目 | エチゾラム錠(1mg/日, ~中止8日後まで), ロペラミド塩酸塩カプセル(2mg/日, ~中止8日後)経口投与。発熱, 倦怠感軽快。 症状改善にてプレドニゾン10mgに減量となる(10mg/日, ~投与23日目)。 |
| | | | | 投与22日目 | 食思不振発現。ヒドロコルチゾン注射用(100mg/日, ~投与24日目)静注投与。 |
| | | | | 投与24日目 | ベタメタゾン・ゲンタマイシンローション(2mL/日), ジフェンヒドラミンクリーム(3g/日)塗布投与。プレドニゾン20mgに増量(20mg/日, ~投与28日目) |
| | | | | 投与29日目 | 下痢, 食思不振軽快。プレドニゾン15mgに減量(15mg/日, ~投与56日目)尿酸値高値の為, アロプリノール錠(300mg/日)増量。 |
| | | | | 投与36日目 | 発赤疹軽快。 |
| | | | | 投与43日目 | 尿酸値上昇, 腎機能障害軽快。 |
| | | | | 投与50日目 | 顔面に皮疹。外用薬にて経過観察。 |
| 投与57日目 | 顔面, 大腿部に皮疹。左上腕のインターフェロン刺入部中心に潰瘍形成。本剤1000mg/日に減量。減量していたプレドニゾンを20mgに再増量(20mg/日, ~本剤中止9日後)。 ケトプロフェン経皮鎮痛消炎剤(1枚/日, ~本剤中止9日後)貼付。ベタメタゾン・ゲンタマイシン軟膏(1.2g/日, ~本剤中止9日後)塗布。 | | | | |
| 投与64日目 (発現日) (投与中止日) | 皮膚症状悪化し, 両上肢に潰瘍伴う発疹, 顔面に皮疹が発現した(発疹の体表面積に占める割合:40%)。本剤投与中止。 プロチゾラム口腔内崩壊錠(0.25mg/日, ~本剤中止8日後)経口投与。グリチルリチン酸注(80mL/日, ~本剤中止9日後)静注。 | | | | |
| 中止3日後 | 再受診時に, 四肢に発疹出ており, 皮膚潰瘍も伴っていたため, 入院のうえメチルプレドニゾンパルスを開始。注射用メチルプレドニゾン(1000mg/日, ~本剤中止6日後)静注。 | | | | |

| | | | | |
|---|--|--|--------|--|
| | | | 中止4日後 | ブドウ糖加アセテート維持液注（200mL/日，～本剤中止9日後），ビタミン（B1,B6,B12）製剤静注用（1V/日，～本剤中止9日後），ヘパリン10単位（10mL/日，～本剤中止9日後）静注。 |
| | | | 中止6日後 | ジクロフェナクナトリウム（25mg/日頓用，～本剤中止7日後）投与。 |
| | | | 中止7日後 | 経口摂取可，全身状態安定。両上肢の潰瘍あるも，やや改善傾向。回診時に，潰瘍部が乾いてきて，皮膚がもりあがってきており，改善してきたことを確認した。 ロキソプロフェン錠（180mg/日，～本剤中止8日後）経口投与。注射用メチルプレドニゾロン（500mg/日，～本剤中止8日後）静注。 同日までは，経口摂取も可能であり，看護師とも普通にやり取りを行っていた。 |
| | | | 中止8日後 | 急速に病態悪化し，両上肢の潰瘍・皮疹の増悪と，両下肢に水疱を伴った表皮壊死が広がる。これまでとは別の部位に発現してきた。リバビリン投与中止。 ジクロフェナクナトリウム（25mg/日頓用，～本剤中止9日後）投与。 |
| | | | 中止9日後 | 前日夕食まで摂れていた経口摂取も困難となる。掻いたり，触ると皮膚が破れて出血するようになる。四肢・体幹の表皮が熱傷のように剥離，水疱を形成し，圧迫のみで表皮剥離する状態であった。 急速に全身の表皮壊死が始まっていたため，緊急時対応の流れに従い，連携先皮膚科があるA病院へ転院となる。 グレード3，水疱，表皮剥離が体表面積の40%，粘膜症状なし，眼症状なし，全身症状：多臓器不全 ペグインターフェロンα-2b投与中止。 高カロリー輸液（1003mL/日），電解質輸液（500mL/日），カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム注0.5% 10mL（10mL/日），トラネキサム酸注（250mg/日），セファゾリンナトリウム注射用1g（1g/日），生食液注（100mL/日），人免疫グロブリンG静注用（2500mg/日），注射用メチルプレドニゾロン（1000mg/日）静注。 |
| | | | 中止10日後 | 転院先にて，中毒性表皮壊死融解症疑いにより死亡。 |
| 併用薬：ペグインターフェロンα-2b（被疑薬），リバビリン（被疑薬），ウルソデスオキシコール酸，肝臓加水分解物配合剤，グリチルリチン酸-アンモニウム・グリシン・L-システイン配合剤，ゾルピデム酒石酸塩，クロチアゼパム，ロサルタンカリウム，ヒドロクロロチアド，オロパタジン | | | | |

| No. | 患者 | | 1日投与量 投与期間 | 副作用 | |
|-----|----------|---------------------------------|----------------|--|--|
| | 性・ 年齢 | 使用理由 (合併症) | | 経過及び処置 | |
| 2 | 女 50代 | C型慢性肝炎 におけるウ イルス血症 の改善 | 1500mg 39日間 | 中毒性表皮壊死融解症，細菌性咽頭炎，サイトメガロウイルス検査陽性， 血中β-D-グルカン増加，高尿酸血症，貧血，便秘，痔核 インターフェロン+リバビリンの前治療歴あり。 | |
| | | | | 投与開始日 本剤 1500mg/日，リバビリン 400mg/日，ペグインターフェロンα-2b 1.4μg/kg/週にて治療開始（3剤併用療法）。 | |
| | | | | 投与4日目 (発現日) | 腹部に発赤，痒痒出現。ベタメタゾン軟膏（0.05%）（適宜/日頓用，塗布），ヘパリン類似物質軟膏（適宜/日頓用，塗布）処方。 高尿酸血症発現。UA 7.2と上昇。アロプリノール（200mg/日，～中止31日後まで）経口投与開始。 |
| | | | | 投与6日目 | 体幹側胸部～腰背部，手指に痒痒を伴う紅色丘疹あり。皮膚科医によりグレード2と診断。クロベタゾール軟膏（0.05%）（適宜/日頓用，塗布）処方される。 |
| | | | | 投与8日目 | 皮疹拡大ないことを皮膚科医により確認 |
| | | | | 投与15日目 | 貧血発現。 皮疹消退傾向あり。抗アレルギー剤継続。 リバビリン（200mg/日）投与変更。 |
| | | | | 投与29日目 | 37.4℃，頸部リンパ節腫脹あり |
| | | | | 投与30日目 | 顔面の眼周囲をのぞく紅斑出現。37.5℃の発熱。 フェキソフェナジン錠，クロベタゾール軟膏投与。 |
| | | | | 投与31日目 | ツロブテロールテープ（2mg/日，～中止44日後，貼布），プレドニゾン軟膏（適宜/日，～中止42日後，塗布），ルリコナゾール液（適宜/日，塗布）投与 |
| | | | | 投与33日目 | 38.0℃以上の発熱。 全身に粟粒大～米粒大皮疹あり。 フェキソフェナジン中止→レボセチリジン錠（5mg/日，経口）に変更。 |
| | | | | 投与34日目 | 好酸球10.6%（白血球3770/mm ³ ）に増加。顔面皮疹改善傾向。 プレドニゾン（20mg/日，経口）開始 |
| | | | | 投与36日目 | プレドニゾン10mgへ減量。 ペグインターフェロンα-2b投与中止。 |
| | | | | 投与38日目 | 紅斑再度出現。プレドニゾン20mgへ増量。プレドニゾン軟膏，クロベタゾールスカルブローション（適宜/日，塗布）併用。 |
| | | | | 投与39日目 | 滲出性紅斑出現。レボセチリジン（10mg/日）に増量。 |
| | | | | 投与40日目 (投与中止日) | 増悪。グレード3の判定。入院にて治療中。 びまん性紅斑，辺縁に浸潤。口腔内上口蓋に紫斑。 リバビリン，本剤すべて中止。 皮膚科入院。プレドニゾン60mgへ増量。白血球8200/mm ³ （好酸球7.3%） |
| | | | | 中止1日後 | オロパタジン錠（10mg/日，経口）投与。 |
| | | | | 中止2日後 | プレドニゾン（50mg/日，～中止11日後，経口）投与。 |
| | | | | 中止12日後 | プレドニゾン40mgへ減量。 咽頭痛出現，リンパ節腫脹あり。 |
| | | | | 中止19日後 | 38.0℃以上の発熱。 細菌性咽頭炎（インフルエンザ桿菌陽性）に対して，セフトリアキソン製剤（2g/日，～中止26日後，静注）点滴開始。 |
| | | | | 中止20日後 | プレドニゾン（60mg/日，～中止22日後，経口）投与。 口唇，口腔内のびらん出現。 フルオロメトロン点眼液0.1%（適宜/日頓用，～中止49日後，点眼），オフロキサシン眼軟膏0.3%（適宜/日頓用，～中止36日後，塗布）投与。 |

| | | | | |
|--|--|--|--------|--|
| | | | 中止21日後 | 皮膚生検 表皮壊死あり。 亜鉛華（10%）単軟膏（適宜/日頓用，～中止27日後，塗布）投与。 |
| | | | 中止23日後 | ステロイドパルス（メチルプレドニゾロン1000mg/日×3日間，～中止25日後，静注）投与。アセトアミノフェン（300mg/日頓用，～中止31日後，経口）投与。 |
| | | | 中止24日後 | 陰部びらん確認。 |
| | | | 中止25日後 | 口腔内びらん改善。 |
| | | | 中止26日後 | プレドニゾロン（60mg/日，～中止28日後）内服，セフトリアキソン製剤終了。 |
| | | | 中止29日後 | 紫紅色調の皮疹拡大，口腔内，陰部のびらんも悪化。 血漿交換，ステロイドパルス開始。 メチルプレドニゾロン（1000mg/日，～中止31日後，静注），リドカイン注射剤1%（10mL/日，～中止31日後，手術時の局所注入），ヒドロコルチゾン注射用（100mg/日，～中止31日後，透析回路内），グルコン酸カルシウム注射液8.5%（10mL/日，～中止31日後，透析回路内）投与。 サイトメガロアンチゲネミア17+11。 |
| | | | 中止30日後 | ガンシクロビル（500mg/日，～中止48日後，静注）投与。 |
| | | | 中止32日後 | 水溶性プレドニゾロン注射用（90mg/日，～中止39日後，点滴）投与開始。 スルファメトキサゾール・トリメトプリム製剤1錠。 フェンタニル注射用10μg/mL/日，ケタミン静注用0.75mg/mL/日，リドカイン点滴用7mg/mL/日静注投与。 |
| | | | 中止33日後 | キシロカインゼリー2%（適量/日頓用，～中止38日後，塗布），親水軟膏（適量/日頓用，～中止38日後，塗布），ベタメタゾン・ゲンタマイシン軟膏（適量/日頓用，～中止38日後，塗布）投与。 |
| | | | 中止34日後 | 皮疹の悪化（体幹，四肢の紅斑赤み増加）。 |
| | | | 中止35日後 | 人免疫グロブリンG（10g/日，～中止39日後，静注）投与。 |
| | | | 中止40日後 | プレドニゾロン80mgに減量。 採血にてサイトメガロアンチゲネミア11+8，β-Dグルカン28.6pg/mLと高値。 水溶性プレドニゾロン注射用（80mg/日，～中止44日後，点滴）投与。 |
| | | | 中止44日後 | スルファメトキサゾール・トリメトプリム製剤錠（12錠分3/日，～中止46日後，経口）を開始。 β-Dグルカン正常値，サイトメガロ陰性。 |
| | | | 中止45日後 | プレドニゾロン65mgへ減量。 ヘパリン類似物質ローション（適宜/日頓用，～中止51日後，塗布），水溶性プレドニゾロン注射用（65mg/日，～中止47日後，点滴）投与。 |
| | | | 中止47日後 | スルファメトキサゾール・トリメトプリム製剤錠（1錠/日，経口）へ減量。 |
| | | | 中止48日後 | プレドニゾロン（50mg/日，～中止50日後）内服へ。ガンシクロビル終了。 |
| | | | 中止51日後 | プレドニゾロン（40mg/日，～中止56日後，経口）へ減量。 |
| | | | 中止57日後 | プレドニゾロン（30mg/日，経口）へ減量。 皮疹は色素沈着化，びらんなし。口腔内びらん改善。陰部；潰瘍改善。 |
| | | | 中止67日後 | TEN軽快 |
| 併用薬：リバビリン（被疑薬），ペグインターフェロンα-2b（被疑薬），アロプリノール（被疑薬），プレドニゾロン（被疑薬） | | | | |